

## 開会あいさつ

2016年9月17日

斉藤吉広

だいぶ肌寒くなった中、またお忙しい中、稚内北星学園大学 COC 全国シンポジウムにお集まりいただき、まことにありがとうございます。主催者を代表いたしまして、開会のあいさつを述べさせていただきます。

本日はこの場に、稚内・宗谷の小学校・中学校・高等学校に加え、養護学校、保育園および教育委員会の関係者の方々、また自治体・議会や道機関の方、そしてテーマに関心をお寄せいただいた多くの市民の方にお越しいただいております。本学の学生もたくさん来てくれているようで、うれしく思います。

さらには遠方から、北見工業大学、北海道教育大学札幌校、室蘭工業大学、山形大学、東北公益文科大学、名古屋大学、奈良県立大学、そして日本私立大学協会からの参加も得ています。はるばる、ありがとうございます。それぞれの大学の実践につきましては、情報交換会やポスターセッションの場でぜひご披露いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

さて本学の地域連携活動は、26年度の「地（知）の拠点整備事業」に選定され、文部科学省から5年間の補助を得ながら、進めているところです。現在ちょうど真ん中、3年目を迎え、ひとつの節目として、これまでの取組みを多くの方と共有し、他大学からの示唆もいただきながら、今後のさらなるブラッシュアップを図っていこうということで、このシンポジウムを企画いたしました。

本学の事業テーマは、「地域の教育力向上とまちづくりで協働する地（知）の拠点整備」ですが、本日のシンポジウムはその片方、「地域の教育力向上」に焦点を当てて、そこで大学がどのように役割を果たせるのかを問うものとなっております。

サブタイトルに「稚内・宗谷の子育て運動に学ぶ」とあります通り、歴史的な積み重ねを経てきた、この地の子育て運動に本学も参画していくという位置づけが、一つの重要な観点となっております。

つい先日も稚内市役所において「教育連携会議」というものが開催されました。子どもの貧困問題への対策に、連携して取り組もうという会議であったのですが、そこには〈幼保小中高大・養護〉、つまり幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校・大学・養護学校の関係者が顔をそろえ、子どもの貧困問題がそれぞれの現場からどう見えるのか、どのよ

うに対処してきたか、あるいは連携関係をどのように発揮できるのかなどが議論されました。そうした協力関係を可能にしているのが、宗谷の教育運動の蓄積であり、本日の参加者の顔ぶれにも、そのことは現れております。植田先生のご講演ではこの点をより明らかにしていただければと思っております。

他方、地（知）の拠点整備事業、COC事業の目標は、あくまでも「学生の育成」です。「地域の知の拠点」としての大学の取組みの中で、学生がどう成長できるのかが問われなければなりません。具体的な内容は、パネルディスカッションや明日の地域活動報告会で示されますが、この点で一つ紹介しておきたいのは、昨年の地域活動報告会の場で学生が「地域に育てられた」と語ってくれたことです。

地域のニーズに応えた活動で学生が活躍する、そのことは地域社会への貢献となるだけでなく、地域が学ぶ場となり、地域が学生を育てるための絶好の機会ともなっています。今回のテーマに即して言えば、学生による子どもたちに対する「教育力向上」のための活動が実は、地域による本学学生に対する教育力を向上させているということ、そのことを確認していければよいかな、と考えております。

それでは、本日のご参加に改めてお礼申し上げますとともに、実り多い議論と交流がなされることを願ひまして、開会のあいさつとさせていただきます。

2日間、どうぞよろしくお願いいたします。